

〈中学校 社会科〉

人生設計能力の育成を図る社会科学習指導の工夫

— キャリア教育の視点を踏まえた「金融教育」授業の実践を通して —



浦添市立 浦添中学校 宜寿次 力

目 次

I	テーマ設定理由	29
II	目指す子ども像	30
III	研究の目標	30
IV	研究仮説	30
1	基本仮説	30
2	作業仮説	30
V	研究構想図	30
VI	研究内容	31
1	将来を見通せる学習指導について	31
2	人生設計や将来のための生活上必要な資金を考えられる力	33
3	キャリア教育の視点を踏まえて「金融教育」との関連がある教科領域を明確にし 共有化を図る工夫	34
4	アクティブ・ラーニングとは	35
5	生徒が将来の諸リスクと向き合える為に	36
VII	授業実践	37
1	単元名	37
2	単元の目標	37
3	単元について	37
4	単元の系統性	38
5	指導計画	38
6	本時の学習	39
VIII	研究の考察	43
1	作業仮説(1)の検証	43
2	作業仮説(2)の検証	46
3	本研究を通して	48
IX	研究の成果と課題	49
1	成果	49
2	課題	49
	おわりに	50
	主な参考・引用文献	50

人生設計能力の育成を図る社会科学習指導の工夫

－ キャリア教育の視点を踏まえた「金融教育」授業の実践を通して －

浦添市立浦添中学校 宜寿次 力

【要 約】

本研究は、生徒自らが将来を見通せる人生設計能力の育成をアクティブ・ラーニング型授業により、主体的かつ将来について考えさせるキャリア教育を踏まえた「金融教育」を組み込んだ授業の実践を行う社会科学習指導の研究に取り組む。

キーワード□人生設計 □キャリア教育 □金融教育 □アクティブ・ラーニング □人生設計プラン

Ⅰ テーマ設定理由

子どもたちが生きる21世紀はグローバル化、情報化、科学技術の進展を遂げる中、地球温暖化、少子高齢化、格差の拡大など、社会の変化とともに容易に解決が難しい課題が山積している。

そのためであろうか、生徒は将来のことを不安に考え、目標が持てず、将来起こり得るであろう多様な問題を解決できる力の弱い生徒が多いように思われる。内閣府の調べで諸外国に比べ日本の子どもたちは、「自分の将来に明るい希望を持つことができている」「学校生活への満足度は、相対的にやや低い」とあり、沖縄の子どもたちも同様の状況にある。そのような状況を変えるためにも、学校での学習が実社会に結びつき、働くこと、生きることの尊さを実感させ、学ぶ意欲を向上させることが必要である。

次期学習指導要領改訂に向けて示された論点整理の中でも「子どもたちに社会や職業で必要となる資質能力を育むためには、学校と社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育み、キャリア発達を促す『キャリア教育』の視点も重要である」と提言されている。また、現行の社会科学習指導要領の公民的分野「私たちと経済」では「社会生活における職業の意義と役割を考えさせる」と謳われている。これを踏まえ、キャリア教育の視点で金融教育を行うことが重要であると考えた。

平成26年度学校基本調査のデータから、高校を卒業しても就職や進学をしない学生が沖縄県は14%と全国の3倍強という状況であり「進路なき卒業」となることが懸念されている。本校の3年生のアンケート調査（検証クラスで9月実施）で、「将来の目標がある程度決まっている」と回答している生徒が6割程度。「将来の目標に向かって

努力している」と回答している生徒が3割という結果となった。本校の3年生のアンケートからも将来そのような状況になる傾向が読み取れる。

これまでの私の教育実践をふり返ると、高校進学にあたって「将来の目標を持たず、合格できる高校の中から選択」といったような状況が多く、進路指導で上手く将来について考えさせることが十分ではなかった。その反省を踏まえ、キャリア教育の視点で生徒に将来の目標や目的、職業を考えさせることで、「目的意識の高揚→学習する意欲」が出るのではないかと考える。また、学習意欲の向上により習得した知識や技能を活用し、将来起こり得る多様な課題を解決する力が付くと考える。

そこで本研究では、キャリア教育の視点で金融教育を行うことが重要であると考えた。生徒の生活上必要な「資金」に注目し、生徒自ら人生設計（目標設定）ができる能力の育成を、公民的分野の「私たちと経済」と関連させ、アクティブ・ラーニング型授業を行い、主体的に考え、「金融教育」の実践研究に取り組むこととした。

研究を進めるに当たり、まずキャリア教育の視点で社会科における「金融教育」と関連が深い他教科領域を明確にする。次に、生徒が将来の人生設計や生活上必要な「資金」や人生上の起こりうる可能性のあるライフイベント、諸リスクについて考え、協働的に対応を検討し合い多角的な見方・考え方を身につけさせる授業づくりを工夫する。それにより、将来を見通した「人生設計（目標設定）」を立てることで、学習意欲が向上し、希望する進路が選択できる能力の育成が図られると考え、本テーマを設定した。

II 目指す子ども像

自分の夢や目標を踏まえて、望ましい人生設計ができる生徒

III 研究の目標

自分の将来の見通しや人生設計、必要な「資金」についての考え方の育成を図る学習指導法の工夫

IV 研究仮説

1 基本仮説

自己理解から将来の目標設定させる過程で、主体的に将来就く職業を調べさせ、人生設計を検討させることにより、将来への見通

しや人生設計、必要な「資金」について考えることができる資質が育つであろう。

2 作業仮説

(1) 将来の目標設定をさせる過程で、自己理解から主体的に将来就く職業を調べさせたり、人生の諸リスクやいくつかの人生設計プラン（人生すごろく）を協働的に検討し合うことで、将来を見通そうとする意識が高まるであろう。

(2) 人生設計プラン作成で、人生上の出来事や諸リスクで必要となる「資金」を考えさせることにより、将来への見通しや人生設計、必要な「資金」について考えることのできる資質が育つであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 将来を見通せる学習指導について

(1) 人生設計能力について

文部科学省の「中学校キャリア教育の手引き」では、「キャリアプランニング能力」について、『働くこと』の意義を理解し、自ら果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である』と定義付けている。また、具体的なこととして

『学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる』としている。これは、私が考える人生設計能力の考え方に近く、生徒がどのような生活を送りたいのか、将来どのような人間になっていきたいのかということ想像させ、目標を持たせることで学力向上推進への原動力になると考え、本研究で、この能力の研究を深める。

(2) 将来を見通せる力について

① 将来を見通した学びを考える力

人生設計能力の育成を図るためには、どうしても将来を見通すことが必要である。そのためには、日常の学校の授業を意欲的に取り組む必要がある。それから、自分なりの目標を掲げて、それに向かう意識と行動力が大切である。上畑直久（2015）が、子どもの家庭学習状況で成績群ごとに分析して、学習意欲と学習習慣

の関係を図1のようにまとめた。成績上位の子どもは、家庭学習の必要感もあり、学習の取り組むの効果と見通しをもって家庭学習に取り組んでいる。

下位の子どもは、家庭学習に必要感はあるけれども取り組み方が分からない、学習への関心が高まらない。下位の子どもが自信を持って家庭学習に取り組むには、「わかった」「できた」「ほめられた」という成功体験につながる指導・支援が必要である。そのためには、家庭学習で予習して自学自習より、授業で「わかった」「できた」「ほめられた」という成功体験により、自分なりの学習方法に効果があるという実感を持てると、自信を持って取り組むための見通しができるようになり、将来を見通す学びを考える力を育成するとしている。

上畑氏の将来を見通す学びを身に付けることが、「将来を見通せる力」になるのではないかと考える。家庭学習を含む学習習慣を身につけ、自学自習することにより、「将来を見通した学び」として、「自分の夢を実現したい」という意欲につながるように導くことで、自らの夢を実現するために何をどのように学べばよいか、目的意識を育てることが必要と考える。このような取り組みは、一単元だけ取り組む内容ではないが、他教科との関わりで取り組んでいきたい。

② 自己効力感について

夢や目標を踏まえて将来を見通す力を育むために、自己効力感を持たせるのが必要である。

藤原亜子（2015）は、「自己効力感という言葉は1977年にカナダ心理学者のバンデューラが社会的学習理論の中で紹介されている」とし、自己効力感とは「自己に対する信頼感や有能感のこと」「人がある場面でこうすればうまくいく、自分にはそれができると思うこと」としている。

伊藤崇達・神藤貴昭（2003）よれば「自己効力感が高いと、外発的動機付けをほとんど用いず内発的動機付けをよく用いる。内発的動機付けを用いると勉強が続けやすくなるのに対して、外発的動機付けを用いると逆にその持続性は下がる傾向がある」と述べている。それは、自己効力感が高まる→内発的動機付けを用いる

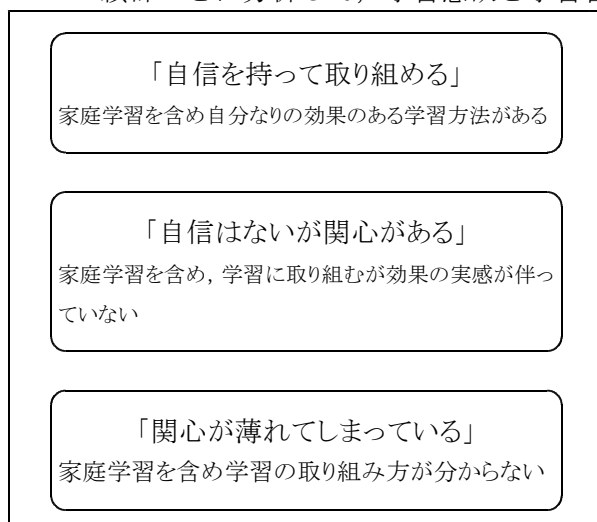


図1 学習意欲と学習習慣 (上畑直久2015引用)

→勉強が続くということである。また、「自己効力感が高ければ高いほど、学習を持続することができる」としている（図2）。勉強を続ける秘訣は自己効力感を高めることである。

また、伊藤氏・神藤氏は、「具体的にどうすれば自己効力感を形成するのか。代表的な要因としては、

- ・達成体験（自分が成功した体験）
- ・代理経験（誰かが成功したのを見た経験）
- ・言語的説得（言葉による励まし）

などが挙げられる」と述べている。これらを利用して自己効力感を高めるための方法として、自分が作った目標をしっかりと達成したという経験が何よりも自己効力感につながる。成功を体験するためには、長期的な目標より、短期的な目標を設定することが具体的で、実現可能な目標である。検証授業でも、ワークシートや人生設計プランを完成させることで「自分ができた」という成功体験が積み重なるような取り組みで、自己効力感が高まる授業展開を計画していく。

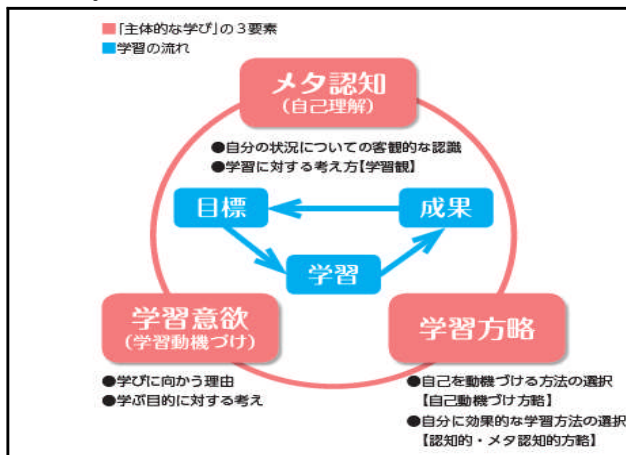


図2 主体的な学びの学習モデル（ベネッセ引用）

矢田 智美・吉中 淳（2014）よれば、進路選択自己効力とは「自己効力に介入し、それを変化させることによって望ましい進路選択行動が生起すると考えられる」としている。また、「中学生において進路選択自己効力が効果を及ぼすための前提として想定されるのは、順に
(ア) 将来と現在は深く関連しているという認識
(イ) 将来のことを考える時、目標という観点から考えることの重要性

以上の2点については最低限、必要となるであろう」と述べている。

以上のことから、本研究における「将来を見通せる力」は将来の目標ができ、自己効力感を高めて内発的動機付けを用いると、学ぶ喜びを感じさせ、主体的な学ぶ態度の育成に繋がるのではないかと考え、将来の目標を掲げるような授業展開として、本研究を取り組んでいく。

(3) 将来を見通せる学習指導について

① ポートフォリオを活用した「キャリア形成」の活動

自己理解から将来の目標設定させる過程でポートフォリオを活用した取り組みを検討した。ポートフォリオを活用して将来の夢を考えさせることから、現在の自己理解を考えさせたい。それは、太田康治（2005）は、「社会科では、評価の観点として観察・資料活用の技能表現や社会的な思考・判断にかかわる能力は、ペーパーテストだけで評価することは難しい」としている。また、太田氏は、「社会科の授業における学び方は、課題解決のために資料を集めたり、分析したりしながら自分の考えを持ち、他者と協同的な学習活動を行う中で表現したり、他者の考えと自分の考えを比べたりしながら、より高まった自分の考えをつくっていくことに特徴がある」と述べている。この点において、ポートフォリオ評価を社会科の授業で使用して評価することは、非常に有効な評価法であると考えられる。ポートフォリオ評価とは、課題解決のために資料を集めたり、分析したりしながら自分の考えを持ち、他者と協同的な学習活動を行う中で表現したり、他者の考えと自分の考えを比べたりしながら、より高まった自分の考えをつくっていくことを見取る評価と考える。検証授業では、この手法を用いて生徒たちに将来の一人暮らし家計を考えさせたり、消費者問題についてグループで協働的に検討させたり、自己理解から夢や目標を考えさせたり、グループで将来起こりうるライフイベントや諸リスクなどを対応の仕方を協働的に検討したことなどをワークシートに記入させる。その検証評価をポートフォリオ評価の内容でワークシートの内容を、検証評価して見取っていききたい。

また、京都市総合教育センター（2015）のポートフォリオの取り組みでは、『子どもたちの将来の適切な支援を行うため、ポートフォリオを活用したキャリア形成の活動を設定している。ポートフォリオに教師がコメントを書き、子どもたちの「振り返り」や目標の「見通し」への「フィードバック」型のアドバイスを行う』ことに取り組んでいる』としている。

「フィードバック」

設定した目標を、指定した期間で目標を達成するためには何をどの程度取り組めばよいかを予測して活動すること

さらに『目標達成に必要な具体的な方法と計画をともに考え、見事目標が達成された時にその取り組み方がメタ認知され、他の場面でも有効に活用できる「将来を見通した学び」となる』としている。生徒自ら将来の見通しができれば、目的意識の高揚で学力が向上し、自信に繋がるのではないかと考え、そのため、ポートフォリオを活用した「キャリア形成」の活動が必要ではないかと考え、検証授業では、将来を見通した夢や目標を考えさせるための授業展開を行い、人生設計プラン（人生すごろく）を作成させ、目標達成に必要な具体的な方法と計画をともに、将来を考える活動を取り入れる。

② 人生設計プラン（人生すごろく）の作成

将来の目標を掲げるような授業展開として、人生設計プラン（人生すごろく）の作成を考える。金融教育プログラム（2016）では、「人生における様々なリスクとその対策を検討した上で、生徒自身がリスクとその対策も含めた人生すごろくゲームを作り、他生徒の作品を鑑賞することで多様な対策への気づきを促し、さらに社会保障制度を含めた生活資源の重要性と生活設計について理解を深めさせる取り組みをさせる」としている。この活動により、人生設計能力が身につく、人生上の起こりうるリスクの対策もでき、将来を見通しを考えられる力が身につくと思われる。これまでに学んだことや調べたことを基に、生涯の見通しや自分の人生設計について考えられるであろう。

2 人生設計や将来のための生活上必要な資金を考えられる力

私たちにとって生活していく上でお金は必要である。「お金を使う」、「お金をためる」、「お金を得る（働いて）」、「お金を借りる」など、私たちは日々、お金とかがわっている。こうした行為は、色々な情報を集め、慎重に考え、納得した上で選択することが必要である。よりよい暮らしをしていくため、意思決定の力を小さいころから養っておくことは、基本的にとっても大切な教育である。

近年、金融教育に対する関心が高まっている。それは、基本的なお金との関わりに加えて、生活環境の変化や経済社会環境の変化が大きく影響していると思われる。

金融教育プログラム（2016）では、「生活環境の変化としては、現在の子供たちは、お金やものに囲まれた豊かな環境の中で育ち、カードやインターネット、携帯電話の普及などもあって、欲しいものが容易に手に入る生活を送っている」また、「親の働く姿を見る機会や自ら働く機会が減少し、働いて生計を立てる自覚や現実即した職業観をもちにくくなっているといわれる」と述べている。このように子どもたちの金銭感覚は乏しく、社会的な問題に巻き込まれやすいために、情報を収集したり、子供たちにお金の価値を実感させ、お金をしっかり扱う態度を身に付けさせることが求められている。

そこで、人生設計プラン（人生すごろく）の作成でライフコースの選択において、希望するライフコースを考えることができるようにする。各ライフステージの特徴や、起こりうる可能性のあるリスクとその対策の重要性を理解することができるようにする。リスクごとに様々な保障があることを理解し、私的な備えだけでなく社会的な生活保障の重要性を認識することができるようにする。

中学卒業後の人生をイメージし、希望するライフコースについて、金銭面も含めて考えることで、各ライフステージにおいて起こりうる可能性のあるライフイベント、リスクを考える。また、資料を活用しながら擬似的な活動（人生すごろく作成）を通して、消費生活などの経済活動が、さまざまなライフイベントでの資金

について考えつつ、選択を通して行われることに気づかせ、その重要性を理解させる(図3)。

擬似的な活動(人生すごろく作成)を通して将来を見通すことへの関心・意欲を高めるとともに、多角的な見方・考え方を広げさせる。

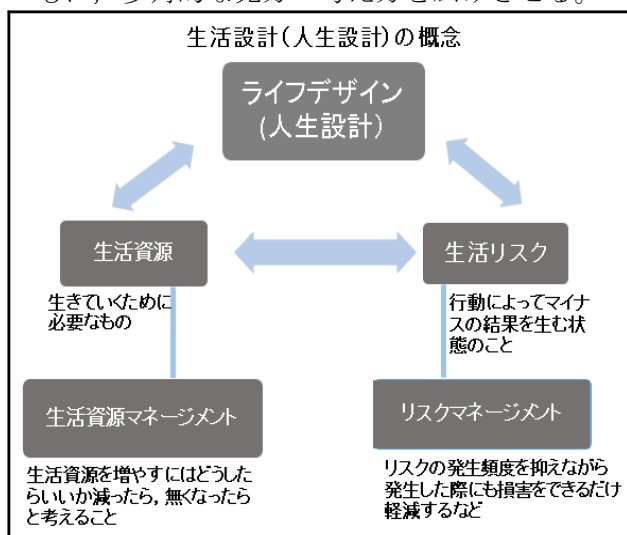


図3 生活設計の概念図(藤田を参考に作成)

3 キャリア教育の視点を踏まえて「金融教育」との関連がある教科領域を明確にし、共有化を図る工夫

学校における金融教育との関連がある教科領域を明確にするメリットとして、単元と金融教育の教科領域にある指導事項との関連がわかる。各分野の内容を確認することを通して、つけたい力がどこで重点的に指導されているのかが整理され、指導の全体像がとらえやすくなる。金融教育プログラム(2016)では、「金融教育は、お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながらより豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育である」としている。キャリア教育と共通する視点があり、キャリア教育の視点を踏まえて「金融教育」との関連がある教科領域を明確することが必要と思われる。特に、本研究では、生活設計・家計管理に関する分野とキャリア教育に関する分野を項目ごとにまとめた。将来の見通しや人生設計、必要な「資金」と関わりがある教科領域を示すことで、クロスカリキュラムを検討していきたい(表1)。

表1 学校における金融教育の年齢層別目標

金融教育プログラム(2016)を参考

学校種	分野目標		つけたい力
	生活設計・家計管理に関する分野		
	生活設計の必要性を理解し、将来を展望した自分の生活設計を立てることができる。	生活設計に必要な様々な知識を身に付け、それを活用して自分の暮らしを考える。	
	キャリア教育に関する分野		
	勤労の意義とお金の価値の重さを理解する。	自らの夢を描き実現も方法を考え、実現に向けて努力する態度を身につける。	
低	○こづかいの使い方を通して計画的に買い物をする大切さに気付く。	○働く人々の素晴らしさに気付く。(生活) ○家の手伝いをする事で役立つ喜びを知る。(生活、道徳)	自分の生活設計を立てる力 将来を展望する力
小	○計画的にお金を使うことの大切さを理解し、実践する態度を身に付ける。	○栽培活動等を通して働くことの喜びと大変さ、お金の価値の重さを理解する。 ○働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。(道徳) ○栽培したものや製作したものを販売する活動などを通して、仕事について考える。	勤労の意義とお金の価値の重さ理解する力
中			

高	○将来を考え金銭を計画的に使う態度を身に付ける。(家庭)	○国などの政治の働きの一つとして社会保障があることを知る。(社会)	○働くことの大切さと金銭を得ることの苦労が分かる。(家庭、道徳) ○働く権利と義務について理解する。(社会) ○働くことを通して社会に役立っていることを理解する。 ○自分の長所・短所を見つけ、将来就きたい職業について考えてみる。(道徳)	○自らの夢を描き、実現に向けて努力する態度を身に付ける。(道徳)	自分の職業選択について主体的に考える力
中学生	○生活設計の必要性を理解し、自分の価値観に基づいて生活設計を立ててみる。 ○よりよい生活を送るための様々な工夫について理解する。	○ローンの仕組みと機能について理解する。(3年公民) ○社会保障について、その基本的な内容を理解する。(社会公民的分野)	○収入を得ることが生活の安定のために必要であることを理解する。 ○労働と賃金ややりがいとの関係について理解する。(社会公民的分野) ○勤労の意義と社会における役割、および勤労の権利と義務について理解する。(社会公民的分野、道徳) ○職場体験などを通じて、勤労を実感し、情報を収集し、就きたい職業について考える。(道徳) ○ニートやフリーターについて考える。	○将来の夢や希望を持ち、その実現に向けて何が必要かを知り、努力する態度を身に付ける。(道徳)	自分の職業選択について主体的に考える力 自らの夢を描き実現の方法を考え、実現に向けて努力する態度を身に付ける力

4 アクティブ・ラーニングとは

中央教育審議会答申(2012)では、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称」と説明している。また、文部科学省「教育課程企画特別部会 論点整理」(2015)より、『次期改訂が目指す育成すべき資質・能力を育むためには、学びの量とともに、質や深まりが重要であり、子供たちが「どのように学ぶか」についても光を当てる必要があるとの認識のもと、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)」について、これまでの議論等も踏まえつつ検討を重ねてきた』としている。

次期学習指導要領改訂に向けた論点整理でも、「育成すべき資質・能力」すなわち、「三つの柱」を育成するため、アクティブ・ラーニングの視点から、不断の授業改善を強く訴えている。

アクティブ・ラーニングの三つの視点と授業改善について、各教科等における習得・活用・探究の学習過程全体を見渡しながら、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の三つの視点に立って学び全体を改善していくことが提言された。

そのため、検証授業でもアクティブ・ラーニング型授業の展開を計画して、取り組んでいく。学習者が主体的に考え、対話的な学びから深い学びにつながるような、能動的な学習への参加を取り入れた内容の授業を計画したい。

石堂裕(2016)は、学習課題について、一人ひとりが課題と向き合う時間、「静的なアクティブ・ラーニング型授業」(図4)や「動的なアクティブ・ラーニング型授業」(図4)での学習の能動性を取り入れ授業でも、思考レベルがアクティブであることの重要性について説明している。個人で考えた後、グループの中で個から出た意見を集約する場を設けることでも、思考が活性化される。アクティブ・ラーニングの効果的な学び合い

に必要な学習課題の工夫して、「学び合う必然性」や「学び合う大切さを実感できる課題を提示」して、生徒が主体的に考えやすい授業を展開することが必要である。また、学習形態や高める手段を有効に活用しながら、生徒達が思考しやすく、さ

らにその思考過程を可視化できるように配慮することが大切である（図5）。

そのような、アクティブ・ラーニングのポイントを押さえて、授業展開を心がける。

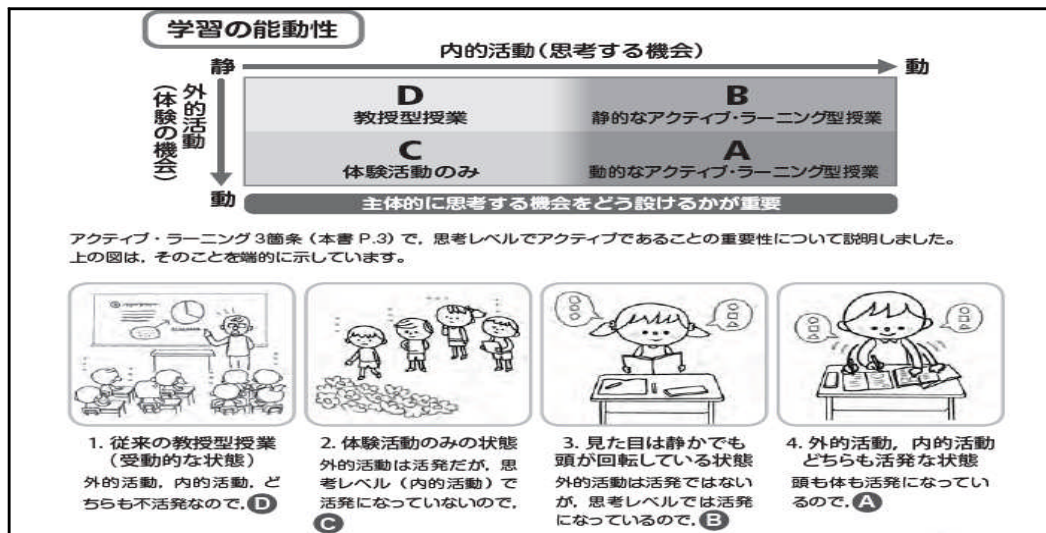


図4 学習の能動性（石堂2016より引用）

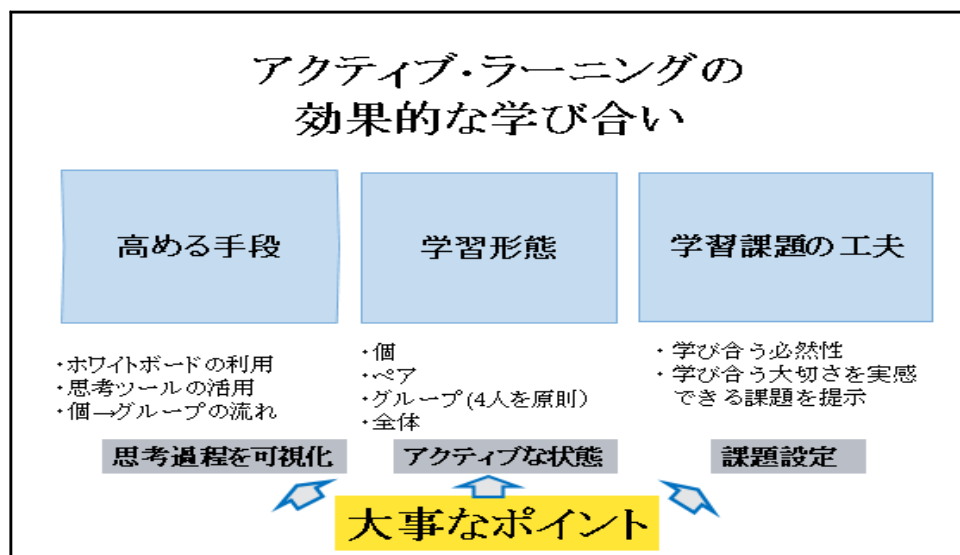


図5 効果的な学び合いのために（石堂の図を参考に作成）

5 生徒が将来の諸リスクと向き合える為に
生徒が生きる21世紀はグローバル化、情報化など、社会の変化とともに容易に解決が難しい課題が山積している。
近年、そのような問題で、生徒は長期的な将来のことを持ちづらく、キャリア形成を行っていく上で様々な社会の秩序が混乱する要因に出会うことが予想される。そのような状況を前提とし、生徒が将来直面する諸リスクに対して、いかに学校で学んでいる間に対応策や備えができるかが、重要な課題の一つとなってくる。国

立教育政策研究所の「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」の結果でも、中学生及び高校生自身や保護者が将来の諸リスクについて指導してほしいという要求がある。

本検証授業では、授業の内容にある消費者問題（若者に被害が多い消費者トラブル）を取り上げて対応策を検討させたり、人生設計プラン（人生すごろく）の中に諸リスクを考えて盛り込ませて将来を安心して見通せるような取り組みを行う計画を立てている。

VII 授業実践

第3学年 社会科学習指導案

平成28年12月7日（水）
浦添中学校3年1組39名
指導者 宜寿次 力

【年間指導計画 (3) 学年 (12) 月計画】

- 1 単元名 「消費者として経済を考えよう」
- 2 単元の目標

この単元では、身近な消費生活を中心に経済活動の意義を捉えさせるとともに、価格の働きや政府の取り組みに着目させて市場経済の基本的な考え方やしくみについて理解させる。

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の公民的分野、2内容の(2) 私たちと経済、ア市場の働きと経済、イ国民の生活と政府の役割について理解し、経済のなかで、家計はどのような役割を果たしているかを考え内容となっていた。また、企業が生産した製品が私たちの手もとに届くまでの経路や消費者の権利は、政府によってどのように支えられているのかを理解させる。まとめとして、将来の望ましい生き方やあり方を考えさせる取り組みにより、将来を見通すような人生設計を考えさせる機会になるようにする。

(2) 生徒観

本学級は明朗快活な生徒が多く、発表も積極性のある学級である。発問に対する反応や課題への取り組みも積極的で早く、教師の助言に素直に答える生徒が多い。学習規律が確立して、落ち着いており学習意欲もある。社会的事象に関心が高く、基礎的・基本的事項の理解も高い。

しかし、高校進学にあたっての意識調査では「将来の目標に向かって努力している」と回答している生徒が約3割という状況で「将来の目標を見据えての進学ではなく、合格の可能性の高い高校の中から選択」という生徒が多い。

(3) 指導観

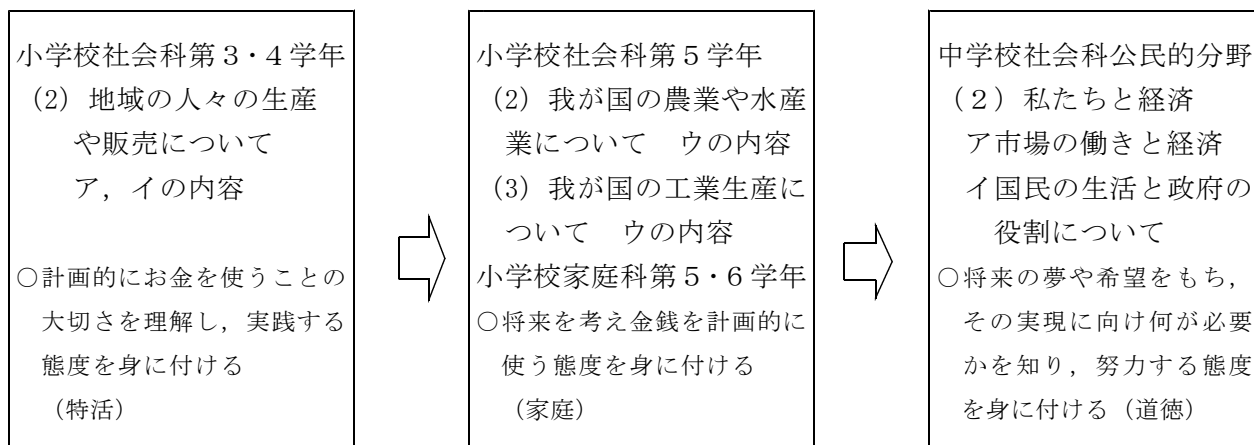
本単元は、身近な消費生活を中心に経済活動の意義を消費者の立場から理解させるとともに、消費者の保護など消費者をめぐる問題について、政府の取り組みなどを理解させることを目的としている。

そのなかで、将来の自分の家計について考えさせるためには、将来への見通しや人生設計を考えさせる必要がある。その手立てとして、自己理解から将来の夢や目標を考え、人生設計プラン（人生すごろく）を制作させることにより、将来の夢や目標を持ち、将来に必要な「資金」について考えさせたい。

3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
個人の消費生活などに対する関心が高まっている。今日の経済活動に関する諸問題に着目し、個人の経済活動について考えようとしている。積極的に自分の人生を考える。	消費者の経済活動の意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。人生のライフイベントやリスクとその対策、資金について認識する。	個人の消費生活に関する資料をさまざまな情報手段を活用して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりする。	国や地方公共団体は、消費者の権利の尊重およびその自立の支援のために消費者政策を推進する役割を担っていることを理解し、その知識を身につけている。

4 単元の系統性



5 指導計画

	項目ねらい	学習活動	手立て	評価規準と評価方法
1	1家計の収入と支出 ○家計の収入 ○家計の支出と貯蓄 ○いろいろな支払い方法 ○あなたの家計簿をつくろう!	経済のなかで, 家計はどのような役割を果たしているかを考える。 将来の家計簿を考える。	・「あなたの家計簿をつくってみよう!」ワークシート	【思考・判断・表現】 経済活動における家計の意義や役割について考えている。
2	2消費生活と流通とのかわり ○流通とは ○私たちと流通 ○消費と広告のあり方	企業が生産した商品が私たちの手もとに届くまでの経路は, どのようになっているかを理解する。		【知識・理解】 企業が生産した商品が私たちの手もとに届くまでの流通の仕組みを理解している。
3	3消費者を支える政府の取り組み ○契約を結ぶということ ○消費者をめぐる問題 ○政府の取り組み	消費者の権利は, 政府によってどのように支えられているかを理解する。 若者消費者トラブルを考える。	・若者消費者トラブルワークシート	【知識・理解】 消費者をめぐる問題に対する消費者保護行政のさまざまな取り組みについて理解している。
4 本 時	・「自分の将来の人生について」考える! ①自分の将来の夢や目標を考える。 ②人生におけるライフイベントについて理解する。 ③各ライフステージの特徴と, 考えられるリスクとその対策を考える。	・学習のねらいを知り, 「自分の将来の人生について」を確認する。 ・これまでに学んだことを基に, 生涯を見通して自分の人生設計について考えることを理解する。 ・グループの中で, 人生のライフイベントやリスクとその対策を出し合って, 自分が気付かなかったことについて認識する。	・「自分の将来の人生」のワークシート ・ワークシート(ライフイベント, リスクを書き込む)	【関心・意欲】 将来について関心を持ち, 自分の具体的な将来像や取組について考えられる。 【思考・判断・表現】 クラスメートの考える人生のライフイベントやリスクとその対策から, 自分が気付かなかったリスクについて認識する。
5	・人生設計プラン(人生すごろく)を作ろう! ①すごろくという形で, これからの人生を表現する。	・学習のねらいを知り, 「人生設計プラン(人生すごろく)」作りのルールを確認する。 ・条件を満たすよう留意ながら, 工夫してすごろくを作る。生まれてからから80歳になるまで, 各年代のライフイベントを入れながら, リスクを3つ以上入れそのため	・「人生設計プラン(人生すごろく)」の基本用紙 ・「自分の将来の人生」のワークシートを利用する	【関心・意欲】 積極的に自分の人生を考えるような関心が高まっている。 【思考・判断・表現】 各年代のリスクとその対策について考える。

	②ライフイベントやリスクにどれだけ資金が必要か考える。	の対策も検討する。 ・ライフイベントやリスクにどれだけ資金が必要か考える。友人と相談してもよいが、あくまでも自分自身の人生設計になるように工夫する。		
6	・人生設計プランから自己の生き方・在り方について考えよう ①グループでライフイベント、リスクの費用資金について考える。 ②改めて、自分の希望する生き方を考える。	・人生について色々な方向性を考える ・インターネットなどでライフイベントにかかる費用も盛り込む。生活するためにどのくらい収入が必要か、統計から読み取って具体的に理解する。 ・自分の希望する生き方と照らし合わせて再検討し、金銭資源の重要性を理解する。	・「人生設計プラン(人生すごろく)」の基本用紙 ・「自分の将来の人生」まとめのワークシート	【知識・理解】 生きていくためにはどのくらい資金が必要か理解する。また、ライフコースによって、必要な資金には違いがあることに気付く。 【技能】 自分の考える人生設計プラン(人生すごろく)を作成する。

6 本時の学習 【4 / 6 時間】



(1) 目標

自分の自己理解から夢や目標について思考させ、グループで人生のライフイベントなどを出し合い協働的に検討し合うことで、将来の見通しや人生設計を思考させる。

(2) 本時の授業の工夫

自己理解から将来の目標を設定させる過程で、ワークシートを使い将来の夢や目標を具体的に設定できるようにさせる。グループで人生のライフイベントや諸リスク、その対応策などを話し合うことにより、多角的に将来を見通そうとする意識を高め、人生設計能力の育成を図る。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価項目(方法)
導入 (5分)	1 既習事項の確認 2 本時のめあてを確認 自分の夢や目標を明らかにし、ライフプランをまとめよう	○フラッシュ教材で消費者をめぐる問題などを確認する。将来起こりうる事柄に対応できるようにする。 ○今日は、自分の将来の人生について考える。 これからの学習の流れを確認する。作成にあたっての留意点を確認する。(自分自身を振り返る)	
展開 (10分)	3 これからの人生設計を検討する。		【関心・意欲】 (B評価) 将来について関心を持ち、自分の具体的な将来像や取組について考えられる。
展開 (10分)	①自分の将来の夢や目標を自己理解しながら、今後の人生を考える。 ②人生におけるライフイベントについて考える。 ③各ライフステージの特徴で、考えられるリスクとその対策を考える。	○ワークシートの項目ごとに考え、将来の夢や目標を考える。 ○個人でライフイベントを設定し、また、リスクも検討し、その対策も考える。	(A評価) 将来について関心を持ち、自分の具体的な将来像や年代別の取組について考えられる。

		○グループに分かれて、生まれてからから80歳になるまで、各年代のライフイベントやリスクを検討し、そのための対策も考える。楽観的ではなく、現実起こりうる出来事などを考えさせる(ライフイベントの例 結婚, バイクや車の購入, 出産, 住宅新築)(リスクの例 ケガ病気, 会社倒産など)	【思考・判断】 (B評価)クラスメートの考える人生のライフイベントやリスクとその対策から、自分が気付かなかったライフイベントやリスクについて認識する。
(10分)	4 グループ内でライフイベントの内容やリスクやその対応策を発表する。	○他者の発表から、自分が気がつかなかったライフイベントやリスクを自分のワークシートに書き足す。	(A評価)自分の具体的な年代別のライフイベントやリスクについて認識する。
(10分)	5 全体で各グループから出た意見を発表する。 	○各グループの内容に足りないところに補足説明を加えて、現実的な課題を修正し、現実的具体的な将来の見通しができるような内容にしていく。 	
まとめ (5分)	6 本時のまとめや振り返り 次時に今日挙げた自分の目標やライフイベントなど盛り込んだ人生設計プランをつくることを理解する。	○次時につながる宿題の内容を伝える。次時の人生設計に盛り込むことが出来るライフイベントやリスクについて身近な大人のひとに質問してくれるように、今日のワークシートの中から質問させる。 	

(4) 板書計画

消費者として経済を考えよう
めあて 自分の将来の人生について考える。

○将来の夢や目標は？

○将来のどのようなライフプラン

○将来の夢や目標を実現するためには、どのような道すじ

○ライフイベント「よいこと」と「よくないこと」

よいこと	よくないこと
------	--------

○リスクについて、対策を考えよう

リスク	対策
-----	----

7 次時の学習 【5 / 6 時間】

(1) 目 標

自分の将来について望ましい生き方やあり方についての見通しを考えさせる。

(2) 本時の授業の工夫

個人で人生すごろくのワークシートを使い、将来の人生設計を自分なりに検討することにより、将来を見通そうとする意識が高める。

(3) 展 開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価項目(方法)
導 入 (5 分)	1 前時の内容 2 本時のめあてを確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">人生設計プラン（人生すごろく）を作ろう！</div>	○確認する。 ○今日は自分の人生設計プラン（人生すごろく）について考える。	
展 開 (20 分)	3 人生設計プラン（人生すごろく）制作の注意点。 ①前時のワークシートを利用して。 ②ライフイベント、リスクマネージメントについても入れ込む。	○作成の注意点について理解する ○自分の夢や目標から考える。 ○真剣に取り組ませる雰囲気をつくる。 ○生まれてからから80歳になるまで、各年代のライフイベントを入れながら、リスクを3つ以上入れ そのための対策も検討する。 ○友人と相談してもよいが、あくまでも自分自身の人生設計になるように工夫する。	【関心・意欲】 将来について関心をもつ。 (B評価)自分の具体的な将来像や取組について考えさせる。 (A評価)各年代のライフイベントやリスクについて対応などを確認している。
(10 分)	4 グループ内での発表 	○まじめに人生設計プランを考えていると思うのでみんなで尊重して、発表の終わりに拍手する。	【思考・判断・表現】 リスクにより失うものとその対策について関心をもつ。
(10 分)	5 グループ内でライフイベントやリスクにどれくらい金額がかかるか調べる	○ライフイベントやリスクにことを確認させ、どれくらいの資金が必要かを調べて検討し合う。それを人生設計プラン（人生すごろく）に盛り込む。	(B評価)他者の考える、対策から、自分が気付かなかったこと認識する。 (A評価)他者の考えを指摘する事ができる。
ま と め (5 分)	6 本時のまとめや振り返り 次時の見通しを持つように説明する。	○内容に足りないところを補足説明を加えて、現実的な課題にして、将来の見通しが出来るような内容にしていく。 	

8 次時の学習 【6 / 6時間】

(1) 目標

人生には、いろいろな方向性があり、生徒たちには、いろいろな可能性があることを実感して、今何をすべきかを考えられるようにする。

(2) 本時の授業の工夫

グループで人生設計プランを使い、将来に必要な資金について検討することにより、安心して将来を見通そうとする意識が高める。

(3) 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価項目(方法)
導 入 (5 分)	1 前時の内容 2 本時のめあてを確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">人生設計プランから自己の生き方・在り方について考えよう</div>	○確認する。 ○今日は、人生設計プランを完成させ、人生について色々な方向性を考える。	
展 開 (20 分)	3 人生設計プラン(人生 すごろく)作成の注意点。 ①前時のプランを仕上げ る。(10分間) ②グループでライフイベン ト、リスクの費用資金につ いて考える。 (10分間)	○作成の注意点について再度確認する ○自分の夢や目標から考える。 ○真剣に取り組ませる雰囲気をつくる。 ○グループで相談して、色々ライフイベントのやリス クにかかる費用を調べ、人生設計プランに盛り込 む。	【知識・理解】 生きていくためにはどのくら い資金が必要か理解する。 (B評価)ライフイベント、リ スクの費用資金について 理解した。 (A評価)ライフコースによっ て、必要な資金には違いが あることに気付き理解でき た。
(20 分)	4 全体でグループの代表 が発表 (10分間) 5 ワークシートをまとめる。 (10分間) 	○ライフイベントのやリスクにかかる費用を盛り込んだ 色々な人生設計プランをみんなで共有して理解を 深める。 ○人生には、いろいろな方向性があり、君たちのいろ いろな可能性があることを実感して、今何をすべき かを考えられるようにする。 	【技能】 自分の考える人生設計プラ ンを作成する (B評価)自分の考える人生 設計プランを完成できる。 (A評価)自分の人生設計プ ランに諸リスクへの対応が盛 り込まれている。
ま と め (5 分)	6 本時のまとめや振り返り 次時の見通しを持つよう に説明する。	○これからの人生には、色々な事が待ち構えている ことが、対応策があれば乗り越えられること確認さ せる。 	

VIII 研究の考察

1 作業仮説(1)の検証

将来の目標設定をさせる過程で、自己理解から主体的に将来就く職業を調べさせたり、人生の諸リスクやいくつかの人生設計プラン（人生すごろく）を協働的に検討し合うことで、将来を見通そうとする意識が高まるであろう。

(1) 協働的に検討し合うことについて

① 手立て

人生設計プラン（人生すごろく）を作成する前に、将来起こりうるであろう消費者問題、人生上のライフイベントやリスク、それらの対応策などをグループで協働的に検討し合うことで、多角的な見方・考え方を身につけさせる。

② 結果

第3時の授業では、教科書に沿った内容ではあるが、将来起こりうるであろう消費者問題、若者に被害が多い消費者トラブル（アダルトサイトからの不当請求、ネットショッピングの偽ブランド品、まつ毛エクステなどのトラブル）の対応策など取り上げ、解決手段等をまず個人で考えさせ（図6）、その後のグループでの話し合いとし、他者との関わりから協働的に検討させた（図7）。アンケート結果（図8）からも、検証前に比べ話し合い活動により、将来のことに興味を持ち、内容の深まりのある意見があった。例えば、結婚、出産、リストラ失業、アメリカでの生活などがあげられていた（図10）。しっかりとワークシートをまとめた。協働的な話し合い活動により、内容の深まり合いが持てたという生徒の感想があった（表2）。



図6 消費者問題の解決手段を考えている様子

○若者に多い消費者トラブルの事例で、どのように対応・対策が必要なのか、例を挙げて説明して下さい。

事例名 アダルトサイトからの不当請求

対応-電源をおとして消えなかった場合は、初期化する。

対策-確認画面かてたり、質問には答えず、中心に消す。

○まとめ（政府の取り組みなどをまとめる）

消費者基本法で、消費者の権利が守られている。

消費者保護や消費者の自立を支援するために、7-11の制度、型透明責任法(元法)などがある。

○振り返り

消費者被害を防ぐために、私たちが心がけなければならないことを説明して下さい。

消費者被害を防ぐためには、おみから商品に対する知識や情報を集めたくて、購入する製品を選んでいく。

図7 第3時の生徒の消費者問題ワークシート

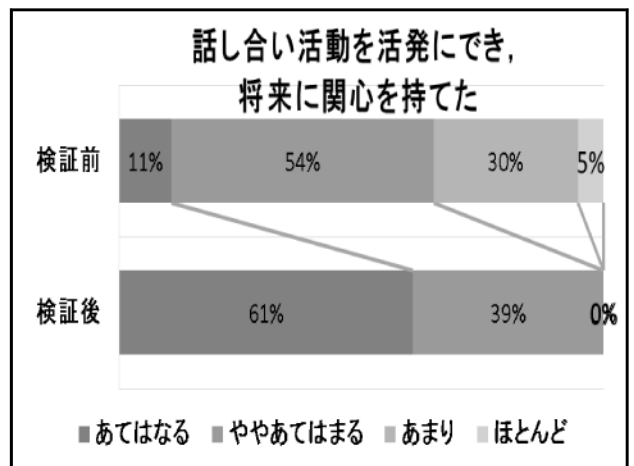


図8 話し合い活動の意識調査

表2 本時生徒ののワークシートのまとめ

・自分の将来、人生の使い方を、よいこと、よくないことに分けると、たくさんでくるなと感じたし、よいことを起こすためには、努力はつきものだというふうにも思った。

・一生の中で、いろいろなライフイベントがあることがわかった。今回、将来についていろいろ考えるきっかけになった。やりたいことができるように、いっしょうけんめいがんばろうと思った。



図9 ライフイベントなどを検討し合っている様子

③ 考察

検証授業ではアクティブ・ラーニング型授業の展開を計画し、生徒が、主体的に考え、自発的に学習へ参加できるよう計画し、協働的な話し合いとなるよう生徒に喚起することに留意した。そのため、生徒にとって消費者問題などは、考えやすく、取り組みやすい内容と思われる。本時の授業では、将来の夢や目標を考えさせ、人生上のライフイベントやリスク、その対応策などをグループで協働的に検討させた(図9)。また、他の生徒の意見から自分が考えなかった事柄を確認できたなど、内容の深まりがみられた(図10)。

よいこと	よくないこと
浦添高校に進学し勉強して、 大学に合格する。 安定した職業に就く。 空くじに当たる。 車を買う。他県に行く。 結婚する。子供が産まれる。	病気になる。 進学できない。 借金が99%。 仕事がなくなる。

※「良くないことが起きる可能性」を「リスク」と呼びます。

5. リスクについて、対策を考えよう。

リスク	対策
例) 病気になる お金がなくなる。 病気になる。 多くの借金をする。	例) 保険に入る 食事に気をつける 勉強する。保険に入る。 健康に気をつける。 お金を借りるときに必ず返済が 件断ず。

図10 生徒のワークシート例

それにより、多角的な見方・考え方が身についたと思われる。また、ポートフォリオ評価で

は、課題解決のために協働的な学習活動で、より高まった意見が見取れた。

(2) 将来を見通そうとする意識について

① 手立て

将来について考えさせる手段として、ワークシートを作成して将来を見通そうという意識を高めさせた。

あなたの家計簿	
①食費(1日= 800 円)×30日=(24000 円)	
②住居費=家賃.....(50000 円)	
③被服費=洋服・靴など.....(10000 円)	
④通信費=携帯・スマホなど.....(12000 円)	
⑤娯楽・交際費=映画・本など.....(20000 円)	
⑥預金.....(23000 円)	
※目的:(旅行・親孝行、将来のため、足りないと3のおまけ)	

図11 生徒が考える一人暮らしの家計簿例

○まとめ(家計の役割や意義について) このプリントに一人暮らしの家賃などをまとめて、僕は将来どんなふうに住むかが、どのような金額にすればいいのかが理解できました。
○まとめ(家計の役割や意義について) 家賃などが想像がなかったのもう少し詳しく知りたいと思いました。
○まとめ(家計の役割や意義について) 自分が将来使う金額など考えるきっかけができてよかった。今日考えたお金の生活がわかるようにがんばりたい。
○まとめ(家計の役割や意義について) お金を配分するのは、と難しいことが分かった。将来が心配いらない。

図12 将来の家計についてのまとめ

② 結果

第1時では、将来一人暮らしをする前提で、家計簿を作らせ(図11)、収支を考えさせたところ(図12)、家計の役割や意義について、「も

っと詳しく知りたい」(図12)。「将来が心配だ」という意見もあった(図12)。

第4時(本時)では、将来の夢や目標を上げさせることで、将来どのような生活がしたいかについて考えさせた。また、将来のライフイベントや起こりうるリスクなどを考えさせ、その対応も検討させたことで、生徒のワークシートの内容から、「リスクの対策を考える必要がある」42.9%(15名)など将来を見据えた記述が多くあった(図13)。

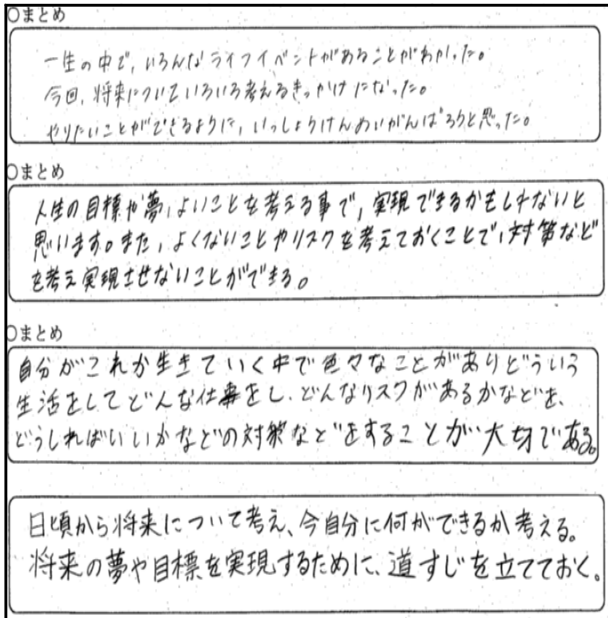


図13 第4時のワーク将来を見通す意見

表3 第6時授業のまとめの内容分析

分析の視点	割合
将来必要となる「資金」について考える	30.8% (12名)
人生設計が大切と考える	25.6% (10名)
将来を前向きに考える	23.1% (9名)
夢や目標に頑張る	12.8% (5名)
今何をすべきかを考える	7.7% (3名)

第6時では、まとめの授業として、「将来に向けて、今がんばっていることやがんばろうと思うこと」について考えさせた。授業のワークシートを分析すると、将来必要となる「資金」について考えるとした生徒が、クラス全体の30.8%(12名)、人生設計が大切と考える25.6%(10名)、将来を前向きに考える23.1%(9名)、夢や目標に頑張る12.8%(5名)、今何をすべきかを考える7.7%(3名)という結果となり(表3)、前向きに自

表4 表3の分類文の一例

<p>【将来必要となる「資金」について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生設計プランを考えてみて、人生には多額のお金がかかるんだなと身に染みて実感することができました。 ・めっちゃお金がかかるから貯金が大事だなと思った。 <p>【人生設計が大切と考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会に出て自立していくとき、人生設計プランが何をしなかったのか、迷っているときに役にたつ。 ・人生、いろいろな事がある！！計画的に生きないと大変になる。 <p>【将来を前向きに考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから、嫌なこともあると思うが、人生に転機はたくさんあると思うので物事を前向きに考えていきたい。 ・ぜったいこんな風にうまくいくわけないし、いろいろかわると思うけど、これからの人生が楽しみです。 <p>【夢や目標に頑張る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢に向かったがんばっていきたいと思った。 <p>【今何をすべきかと考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの人生について考えて、今の自分が何をすべきか考えることが大切だと思いました。 ・将来の人生プランをたてることで、今なにをやったらいいか見当がついた。
--

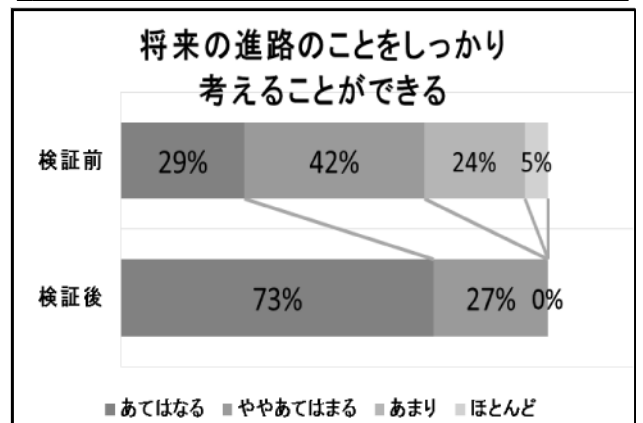


図14 将来の進路のこと意識調査

分の将来の夢や目標を意識した生徒がほとんどであった(表4)。

③ 考察

将来を考えさせるワークシートの活用により、生徒の将来に対する意識の高まりがアンケート結果から読み取れる(図14)とともに、自己理解や将来の進路について意識させる効果があったと言える。

また、第6時のワークシートから、将来必要となる「資金」について考えるや人生設計が大

切と考える生徒，将来を前向きに考える，夢や目標に頑張る，今何をすべきかと考えるなど，将来の人生を前向きに考えられる生徒が約9割であった。このことにより，将来に関するワークシートを活用（図15）することで，将来について考えさせる取り組みができ，将来を見通そうという意識を高めることができると思われる。



図15 ワークシートに記述している様子

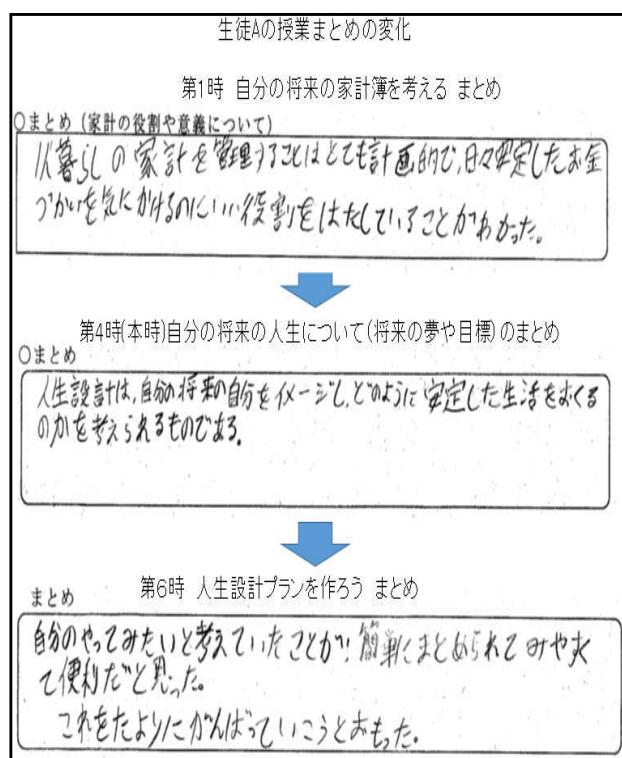


図16 生徒Aの授業のまとめの変化

また，生徒 A（図16）のように，「家計の管理は日々の安定した生活にいい役割をはたしている」や「人生設計プランを将来の安定した生活をするためには，必要である」，「自分のやってみようと考えていたことが簡単にまとめられて見やすく，便利」，「これをたよりに頑張っていこうと思った」と記述していることから，ワークシート活用は「キャリア形成」に有効であると考えられる。

今回の検証授業により，将来の目標をはっきり

見据え前向きに人生を送ろうと考える生徒が多くなった。

このようなことから，人生設計プランでも，「自分の考えた計画通りにいける」という自信を持つ生徒達も多くなり，自己効力感が強くなるのではないと思われる。

進路についても高校受検の勉強を頑張っており，希望する高校に合格すればメタ認知も働き，次のステップを踏み，自分の夢や目標に挑戦し，続けると思われる。

また，将来に関するワークシートで，自分の夢や目標，自分自身がどう変わりたいかなどを決め，自分自身で予測して改善していくフィードフォワードの考え方ができ，将来を見通そうという意識が高まるのではないと思われる。

2 作業仮説(2)の検証

人生設計プラン作成で，人生上の出来事や諸リスクで必要となる「資金」を考えさせることにより，将来への見通しや人生設計，必要な「資金」について考えることのできる資質が育つであろう。

(1) 人生上で必要となる「資金」を考えさせることについて

① 手立て

人生設計プラン（人生すごろく）のワークシートにライフイベントやリスクなどにどのくらい「お金」資金がかかるのかを調べさせ，記述させる。

② 結果

第1時では，将来一人暮らしをする前提で，家計簿を作らせた。作成した家計簿を確認すると現実的な内容を全員が記述する表現が見取れた。このことで，将来必要となる「資金」について考えさせるきっかけになった。

第5～6時の授業では，人生設計プラン（人生すごろく）を作成させる上で，人生上の出来事ライフイベントや諸リスクで必要となる「資金」を考えさせ，将来への見通しや人生設計，また，それらから派生する資金についても調べさせた。このことにより将来を見通して必要な「資金」について考えさせることができた（図17）。

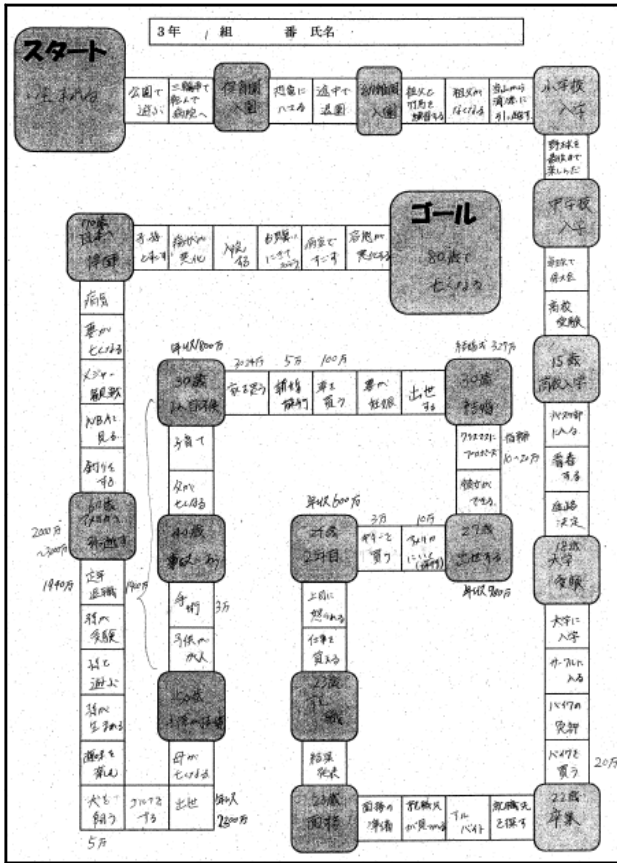


図17 生徒の人生設計プランの例

まとめ
自分が将来生をこいくために必要な知識や、危ないことに巻き込まれた時の対策やお金が必要。

まとめ
・人生をどうしたいかを、先のことと考えるのはとっかかりが、たいたいの金額とかも命が、これからのことに役立ちそうだなと思った。・お金のめあめがわかるようになった。

まとめ
人生設計プランを考えた後、人生にはお金の必要がわかるんだなと身に染みて実感することができました。

図18 第6時の生徒のワークシート例

第6時のワークシートの記述では、将来「資金」が必要だと考える生徒は、クラス全体の30.8% (12名) という結果であった (図18) が、作成させた自分の人生設計プラン (人生すごろく) の内容からは、ライフイベントや諸リスクへの対応費用資金などの「資金」が多少なりとも生徒全員の記述にあった (表5)。

資金の詳細を分析すると、趣味の費用資金と記入した割合は、男子が若干多かった。また、自分の子供や孫のための費用資金を記述している生徒の割合は、3分の2が女子であり、将来の自分の収入も、女子が約7割近く記述していた。

表5 人生設計プランの内容分析

分析の視点	割合
ライフイベントやリスクの費用資金について10項目以上記入	86.8% (33名)
自分の進学資金を記入	78.9% (30名)
結婚資金を記入	78.9% (30名)
旅行資金を記入	73.7% (28名)
バイクや車の購入資金	73.7% (28名)
自分の子供の出産資金	71.1% (27名)
自宅を建てるやマンション資金	63.2% (24名)
自分の子供や孫のための費用資金	55.3% (21名)
ケガや事故、病気入院などの費用資金	52.6% (20名)
趣味の費用資金	36.8% (14名)
自分の留学費用資金	13.2% (5名)
将来の自分の収入	68.4% (26名)

③ 考察

人生設計プランの作成をさせる上でライフイベントやリスクなどを協働的に検討したり、どれくらい資金がかかるのかを調べさせることにより、将来への見通しや人生設計、必要な「資金」について考えさせることにつながったといえる。

また、人生設計プランを仕上げるのに時間を要したが、放課後を利用して仕上げるなど、意欲的に取り組む生徒も多く、自分の将来を具体的かつ計画的にとらえられる生徒が多くなったと思われる。

そのため、この学習活動は有効だったと考える (図18)。

また、生徒が将来の諸リスクと向き合える機会として、とてもいいきっかけになったのではないかと。生徒たちが、自分たちで諸リスクの対応の仕方を考え、検討して盛り込むことにより、将来の見通しができ、希望が持てるようになったと思われる。

資料を活用しながら生徒の人生設計プランを作成させる過程において、将来の人生を擬似的

に体験することで、消費生活に必要な「資金」についても考えることのできる資質が育ったと考えられる(表5)。

また、将来の自分の収入について、女子の約7割近くが記述しており、女子が現実的に将来を考えていることがわかる。

このように、人生上で必要となる「資金」を考えさせることで、現在と将来は深く関連しているということが、アンケート結果(図19)から分かり、資料の読み取りにより、現代社会について興味を持てるようになった割合が、検証前よりだいぶ高くなった。従って、実社会に対して興味が出てきたと思われる。

このように、授業で学んだことが、実社会・実生活に役に立つと考える生徒も検証前より、多くなった(図20)。

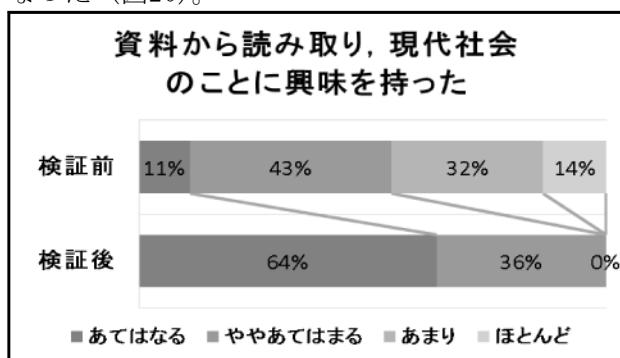


図19 現代社会についての意識調査

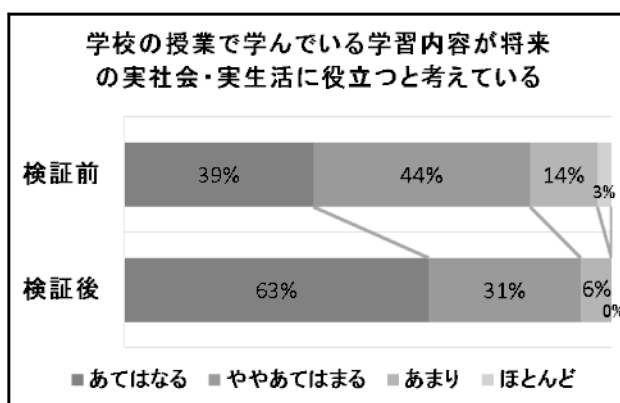


図20 生徒の意識調査

このことは、進路選択自己効力が効果を及ぼす前提となる認識なので必要とされ、生徒たちにこの認知があれば、将来を見通そうとする下地になるとと思われる。

検証授業後の生徒のワークシートから、「いろいろな人と関わってのはじめて仕事ができ、子育てができるという流れになるんだなとおもいま

した」や「社会の常識が少しわかった気がした」というように、ワークシートや人生設計プランの作成により、現代社会や実生活について理解した生徒たちの考えに変容が見られたことは、検証授業が有効だったのではないかとと思われる。

このようなことから、人生設計プラン作成で、人生上の出来事や諸リスクに必要な「資金」を考え、将来への見通しや人生設計、必要な「資金」について考えることのできる資質が育つと思われる。

3 本研究を通して

(1) 将来に関するワークシートの活用

ワークシートを活用して現在の自己理解から将来の目標設定させる過程で、今まで何となく思っていたことを文字にしたり、明言することにより、自分の将来の目標などが明確になったり、人生設計プラン(人生すごろく)を作成させることで、自分の誕生から今までの人生を振り返ることで、自己理解ができ、将来の夢や目標を考えることができた生徒も多かったと思われる(図17)。

また、「将来に向けて、今がんばっていることやがんばろうと思うこと」という項目に、自分の将来の目標を掲げて、取り組もうという生徒も多くいた(表6)。

(2) 生徒が将来の諸リスクと向き合える為

生徒が将来直面するであろう諸リスクに対して、学校で学んだことが備えとなりえるのが、重要な課題の一つとなっている。本研究では、人生設計プランに盛り込むリスク対応の内容を生徒たち自身で検討することで、将来の見通しができ、希望が持てるようになったと思われる。

その結果、アンケート(図20)にもあるように、学校の授業で学んでいる学習内容が将来の実社会・実生活に役立つと考える生徒も大幅に増加したのではないかとと思われる。

(3) 生徒の学習意欲の向上

第6時限目の最後のワークシートの項目「将来に向けて、今がんばっていることやがんばろうと思うことは何か」という項目で、生徒の76.3%(29名)は、勉強をがんばりたいとのコメントがあった(図21)。

このワークシート内容の結果からも、将来に関するワークシートの活用、人生設計プラン（人生すごろく）の作成は、目標設定により学習意欲の向上に役立つと思われる（表6）。

1. 将来に向けて、今がんばっていることやがんばろうと思うことは何か。

自分の目指している職業（につくためにその分野のことを頑張ろうと思う）
 ・将来、いい生活と収入を安定させるために、もっと勉強を頑張る。

1. 将来に向けて、今がんばっていることやがんばろうと思うことは何か。

将来に向けて今頑張っている事は、僕の将来で使うあたりまえの事を今出来るように頑張っています。また、頑張ろうとしている事は、将来自分が目標にしている仕事に就くために高校から基礎から頑張って勉強していきたいです。

1. 将来に向けて、今がんばっていることやがんばろうと思うことは何か。

高校に入って高校生ができる洋服関係のバイトを探して、洋服についてもっと知りたい。

1. 将来に向けて、今がんばっていることやがんばろうと思うことは何か。

将来、海外に行きたいので、外国語について人と勉強する。

1. 将来に向けて、今がんばっていることやがんばろうと思うことは何か。

気象予報士の資格を取得するために頑張っています。放送の技術を磨いています。

図21 生徒ワークシートの一例

表6 「将来に向けて、今がんばっていることやがんばろうと思うこと」の生徒のコメント

- ・大学に入れるように、高校に合格して、勉強を頑張りたい。
- ・将来に向けて勉強を頑張る。
- ・歌を歌って（劇団で）、受験勉強をしている。
- ・高校に入って高校生ができる洋服関係のバイトを探して、洋服についてもっと知りたい。
- ・僕は、今で勉強を頑張る、教師になろうと思いました。
- ・将来に向けてがんばろうと思うことは、高校生になるために勉強とプロになるためのサッカー練習です。

IX 研究の成果と課題

1 成果

(1) 人生設計能力について

生徒が将来どのような人間になっていきたいのかということ想像させ、目標を持たせることで学力向上推進への原動力になると考え、人生設計能力を身につけさせたい。その一つの手段として、人生設計プラン（人生すごろく）を作成させた。その過程で夢や目標を持たせる、何をどう取り組めば良いのかを予測して活動することでフィードフォワードの考え方ができ、自己効力感が高まり、人生設計能力が身につく効果があった。

(2) グループで協働的に検討し合うこと

将来の夢や目標を考え、人生上のライフイベントやリスク、その対応策などをグループで協働的に検討し合うことで深い学になるアクティブ・ラーニング型授業の展開で、将来の不安や悩みなども解消し、将来を見通そうとする意識が高まったと思われる。自分では、思いつかない事柄や思考や理解の深まりとともに多角的な見方・考え方を身につけさせることができた。

(3) 人生上で必要となる「資金」を考えさせること

将来を考えると、「資金」が必要だと考える生徒は、クラス全体の30.8%（12名）という結果である。しかし、人生設計プランには、必要となる資金についての記述があり、将来への期待が感じられる。また、将来必要となる資金や収入についても知識として理解したことで、将来への希望をもち、将来を見通すことができるとと思われる。

(4) ワークシートの活用の有効性

生徒の社会科の授業に対する関心・意欲を高める教材としてワークシートの活用は、これまでのような受け身や講義科目のような授業形態から、生徒が主体的に学習を行う授業形態とすることができた。

2 課題

(1) 将来の具体的目標に向き合えない生徒

本時の授業で、将来の夢や目標（仕事、職業）を書いた生徒は、79.4%であった。ほかの約2割は、まだ決まっていない状況である。

また、人生設計プランを作成で、職種を書いていない生徒が多く、一単元では夢や目標から将来のイメージを持たせられなかった。

(2) キャリア教育や金融教育の教科間や学年別の連携

小・中学校それぞれが発達段階に応じた身につけるべきスキルや能力を連携して学習させることが求められている。社会科という一教科だけで取り組むことは難しいことであり、学校や学年単位、あるいは教科間の連携が必要となり、横断的な取り組みが今後の課題である。

(3) 生徒が調べた必要な資金の妥当性

今回は、社会科教科で6時間の検証授業だったため、短期間の調べ学習であったが、ある一定の成果は上がった。しかし、時間が限られているため、生徒が調べた人生上の必要な資金の妥当性についてグループであまり検討させきれなかった。

おわりに

将来の夢や目標などがなくまま進学する生徒に対し、十分に指導できないまま進学させていた自らの実践の反省から、今回のテーマとしました。将来を見据えて行動することは、大人にとっても難しいことです。しかし、現代の生徒にとっては、変化の激しい社会を生き抜くためには必要な能力の一つであり、社会からの要請は今後ますます大きくなることと思います。

私が研究の人生設計能力は短期間の指導や一教科の指導では身につくものではなく、学年や他教科との連携も必要で、本研究における成果は真の成果とは呼べないのかもしれませんが。しかし今回、授業後の生徒の声「将来についていろいろ考えるきっかけになった」「今自分が何をすればいいのかが分かりました」などが私にとって大きな成果だと感じています。社会科の授業は、内容教科ではあるが、キャリア教育と密接な教科であることを考え、生徒一人ひとりの将来を大事に考え、日々の実践に当たりたいと思います。

今回の研修期間中、ご指導ご助言いただきました仲西起實所長、日高聡係長、美差淳司指導主事、検証授業や報告書等、教科に関するご指導ご助言をいただいた、當間五弥那覇教育事務所主任指導主事、検討会や報告会等でご指導ご助言をいただきました浦添市教育委員会の先生方へ深く感謝申し上げます。

また、研究所での研修を勧めてくださった浦添中学校佐久川穰治校長先生をはじめ、検証授業や実態調査等で学校を訪れる際に、進捗状況を気にしていただき、声をかけていただいた東江功子教頭先生、浦添中学校の先生方、そして半年間の研究をともに励んだ研究員の先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

【主な参考・引用文献】

- | | | | |
|--|-------------------------------|---------------------------|-------|
| ・中学校学習指導要領解説社会編 | 文部科学省 | 日本文教出版 | 2008年 |
| ・「中学校キャリア教育の手引き」 | 文部科学省 | | 2011年 |
| ・主体的にキャリア形成に取り組むことができる子どもの育成 | 上畑直久 | | |
| | 京都市総合教育センター研究紀要 | | 2015年 |
| ・勉強は続けられます！学習を持続するための3つの科学的な方法 | 藤原亜子 | | |
| | studyhacker.net STUDY HACKER | | 2015年 |
| ・自己効力感,不安,自己調整学習方略,学習の持続性に関する因果モデルの検証 | 伊藤崇達・神藤貴昭 | 日本教育工学雑誌 | 2003年 |
| ・ベネッセのオピニオン第59回 学び方の工夫で家庭環境による格差を縮められるのか | | | 2014年 |
| ・中学生の時間的展望と進路選択自己効力 | 矢田 智美・吉中 淳 | 弘前大学教育学部紀要 | 2014年 |
| ・教科学習と総合学習におけるポートフォリオ評価の活用 | 太田康治 | 学習情報研究 | 2005年 |
| ・京都市の「将来を見通した学びを考える力」を育む活動プログラム例 | | | |
| | 京都市総合教育センター研究課・カリキュラム開発支援センター | | 2015年 |
| ・金融教育プログラム[全面改訂版] | | 金融広報中央委員会 | 2016年 |
| ・『現代社会の生活経営』『リスクと生活設計』 | 藤田由紀子御船美智子上村協子編著 | 光生館 | 2001年 |
| ・「教育課程企画特別部会 論点整理」 | | 文部科学省 | 2015年 |
| ・今からできる！石堂流アクティブラーニングのABC | 石堂裕 | 日本文教出版 | 2016年 |
| ・再分析から見えるキャリア教育の可能性 —将来のリスク対応や学習意欲,インターンシップ等を例として— | | 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター | 2016年 |

あなたの家計簿をつくってみよう！

1. 3年組番氏名
メンバー
 ① (ちんろ) ② (ビクター) ③ (せいへい)
 ④ (自分) ⑤ () ⑥ ()

2. あなたの条件
- ①高卒：(月収 = 万円)、大卒：(月収 = 19 万円)
 - ②アパートで一人暮らし
 - ③テレビ、洗濯機、冷蔵庫、テーブル、布団、タンス、携帯・スマホはあり。
 - ④バス通勤、バイク・車はなし。
 - ⑤税金+社会保険料、雑費、光熱・水道、交通費、保険料は共通。

3. あなたの月収

<月収> (19 万円) <税金+社会保険料> (1万円)

<可処分所得^{かしょぶんしよとく}> = (19 万円) - (1万円) = (18 万円)

<①~⑥の金額> 高卒： 139,000円、大卒： 159,000円

4. あなたの家計簿

- ①食費 (1日 = 500 円) × 30日 = (1万5000 円)
- ②住居費 = 家賃 (7万 円)
- ③被服費 = 洋服・靴など (3万 円)
- ④通信費 = 携帯・スマホなど (1万 円)
- ⑤娯楽・交際費 = 映画・本など (1万4000 円)
- ⑥預金 (2万 円)

※目的：(預金をためてハワイに旅行に行く!!)

- ⑦雑費 = 洗剤・ティッシュなど (1000円)
- ⑧光熱・水道 (9000円)
- ⑨交通費 = バス代 (1日 = 600円 × 30日 = 18000円)
- ⑩保険料 (3000円)

※支出合計 = ①~⑩の合計 (高卒 = 17万円) (大卒 = 19万円)

○まとめ (家計の役割や意義について)

リアルと現実的の考えだと、難しいかなと思う。

3 消費者を支える政府の取り組み

3年 組 番 氏名

学習課題 (私に於ける消費者の権利は、政府によってどのように変えられているのでしょうか。)

○契約が成立する時点はいつか。

商品と売主と、それを買いたい人の意思が一致し、
売買が成立するとき。

○消費者保護や消費者の自立を支援するための制度、法律の内容を書きなさい。

クーリング・オフ制度

一定の期間内であれば、無条件に契約を取り消すことを業者に要求できる。

製造物責任法 (PL法)

消費者が製造業者への過失を証明しなくても、賠償を請求できる。

●若者に多い消費者トラブルの事例で、どのように対応・対策が必要なのか。例を挙げて説明して下さい。

事例名 ネットショッピングで偽ブランド品

対策: ネットでの販売なので、それが本当に本物なのか、冷静に判断して
買うようにする。

対応: クーリング・オフ制度があるので、無条件に契約を取り消すことを
業者に要求する。

○まとめ (政府の取り組みなどをまとめる)

・消費者基本法・クーリング・オフ・製造物責任法(PL法)など、消費者の支援を行っているが、
自ら商品に対する知識や情報を集めたうえで、購入する商品を選択していくことが
必要である。

○振り返り

消費者被害を防ぐために、私たちが心がけなければならないことを説明して下さい。

○自ら商品に対する知識や情報を集めたうえで、購入する
商品を選択していくことが必要。

○安全かどうかを判断する。

消費者相談窓口

沖縄県消費者生活センター

098-863-9214

月～金 営業中

自分の将来の人生について(将来の夢や目標)

めあて (自分の望ましい人生を設計する。)

自分の将来の人生について考えると、夢や目標、仕事を考えることの大切さやそれを実現するためにはどうしていかなくてはならないのか。自分で考え、また、友だちの意見を聞きながら考えていきましょう。

1. 将来の夢や目標は? (やってみたい仕事, やってみたい活動など)

仕事 (職業) 国際関係の仕事。海外で就職する。

活動 お父さんのお店を復活させてみたい。

2. 将来のどのようなライフスタイルを考えているか。(家計の面から考える)

10代. 部活と勉強を両立させる。(高校)

- ・大学進学する。
- ・車の免許をとる。

20代. 大学に行って勉強を頑張る。

- ・アメリカに語学留学する。
- ・結婚する

30代以降

3. 将来の夢や目標を実現するためには、どのような道すじがあるか。

(必要な資格・免許なども考えて)

英検、車の免許

4. 人の一生の中で、転機となり大きな意味を持つようなライフイベントを、ぜひ起こって欲しい「よいこと」と、できれば避けたい「よくないこと」に分けて、できるだけたくさん挙げてみよう。

よいこと	よくないこと
結婚すること。 アメリカとかに働くこと。 別荘をもてること。	借金したくない。 病気にかかりたくない。

※「良くないことが起きる可能性」を「リスク」と呼びます。

5. リスクについて、対策を考えよう。

リスク	対策
例) 病気になる ・ ビザがきれる ・ 借金する	例) 保険に入る 食事に気をつける ・ 1回日本に帰って、ビザをとリなおす。 ・ 借金しないように頑張る。

○まとめ

人生は良いこともあるけど、それに伴うリスクがあるということが命か。そのリスクが大きいものがないように、対策も考えておくことが大切。

【参考】グループでの話し合い方法

- ① グループ内で「発表順」と「司会者・発表者」を決めておく。
- ② 自分の意見は具体的にわかりやすく伝える。
- ③ 他の人の意見はしっかりと聞く。
- ④ 疑問に思ったことは質問する。
- ⑤ 話し合ったことをまとめる。

自分の将来の人生設計について(将来の夢や目標)

3年 組 番 氏名

めあて (人生設計シミュレーションを考えた)

1. 将来に向けて、今がんばっていることやがんばろうと思うことは何か。

もっと英語の勉強をして、将来に向けて頑張りたい。

2. 学校で学んでいる学習内容が将来の実社会・実生活に役立つことは何か。

今やっていること。
人のコミュニケーション。

まとめ

・人生が「まて」で「けい」、先のことを考えるのは大変じゃなかったし、
だいたいの金額とかも分かったし、これからのことに役立ちそう
だと思った。・お金がめっちゃかかるよと思った。

○授業で学習したことを自己評価する(項目に○をして下さい)

・資料からいろいろなことを読み取り、現代社会のことを身近に感じ興味を持つことができた。

あてはまる ややあてはまる あてはまる あまりあてはまらない ほとんどあてはまらない

・話し合い活動を活発にでき、「自分の将来の人生設計について」しっかり考えられた。

あてはまる あてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない ほとんどあてはまらない

・今回の授業で、自分の将来への見通しができたか。

あてはまる あてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない ほとんどあてはまらない

・今回の授業で、自分の将来の希望が見えてきたか。

あてはまる あてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない ほとんどあてはまらない

